

News Letter

2024年

5月

中国四国農政局
鳥取県拠点

新規就農者へ栽培指導「ねぎの学校」開校！！

米子・境港市両市にまたがる西日本有数の白ねぎの産地として知られている弓浜（きゅうひん）地区で、新規就農者や経験の浅い生産者を対象に、白ねぎの栽培から地域活動まで幅広く学べる場として「ねぎの学校」が開設され、令和6年4月18日の開校式に今年度の受講生14名が出席しました。

弓浜地区の白ねぎは、70年以上の歴史があり、ピーク時には40億円を超える販売額がありましたが、近年は高齢化による生産者の減少や担い手不足、異常気象の影響を受け、販売額はピーク時の半数の20億円を下回っている状況です。



そこで、白ねぎ生産者をはじめ、JA鳥取西部などの関係機関と米子・境港市両市は、県の事業を活用した「弓浜地区白ねぎ産地の生産振興プラン」を策定し、令和6年度から5年間、新規就農や担い手の確保、品質・収益性の向上に取り組みますが、その一環として「ねぎの学校」を開設しました。「ねぎの学校」は、厳しい経営環境へ対応する知識・技術の習得や、生産者間の繋がりを深めてもらうことを目的に、基礎知識や経営、地域活動など幅広いカリキュラムを、講師となる普及員や経験豊富な生産者から1年間学びます。



開校式では、学校長や講師の方から「白ねぎに熱い思いを持った講師の方からしっかりと学んで、白ねぎづくりに活かしてほしい。」

「知識があったから乗り越えられた失敗もあった。わからないことはしっかりと聞いて1年間学んでほしい。」「受講生間でもしっかりと話をし、仲間づくりをしてほしい。」と受講生へメッセージを送られました。

「ねぎの学校」により、白ねぎ産地のさらなる発展につながることを期待されます。

スマート技術で地域農業を変えていく若き農業者

～おいしいお米を作ってます～



鳥取県大山町の馬田雄大(22)さんは、就農2年目で農業用ドローンなどを活用したスマート農業を実践、おいしいお米を作っている若き農業者です。令和5年3月鳥取県立農業大学校を卒業し、同年4月、父であり農業の師でもある雄一郎さんのもとに土地利用型農業で就農しました。

昨年、山形県庄内町において開催された「第17回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテストin庄内町」のメジャー部門にドローンで直播した「きぬむすめ」を出品し、就農わずか1年でみごと優良金賞を受賞した凄腕の持ち主です。

～ドローンなどスマート技術で省力化～

雄一郎さんが生産管理システム、トラクターの自動操舵システム、農業用ドローン、ロボット草刈機、食味・収量コンバインなどのスマート技術を導入していたことから、スマート農業にとっても関心があり、大学在学中にドローン操作の免許を取得しました。今年産は、10haの水田でドローンによる種籾の直播、肥料・農薬散布を行います。



雄大さんは、スマート技術の活用メリットを「労働時間やコストの削減、身体的負担の軽減」「作付面積の拡大」「誰がやっても高精度な作業性」と言い、重労働で難しい技術が必要と思われがちな農業に若者が参入しやすくなることを期待しています。

～農業を魅力あるものにするために～

「農業でもしっかり収入が得られることを証明し、農業を魅力あるものにしたい。スマート技術をもっと取り入れ、労働時間や身体的疲労を減らし、一人でもできる農業を実践する。今後は、主食用米の輸出も視野に入れながら、大豆の生産増や新たに飼料用米や小麦の生産に取り組み、2040年までに1,000haまで規模拡大したい。」と志の高い雄大さん。

農業従事者の高齢化と担い手不足が大きな課題の中で、しっかりと農業の基礎を学び、大きな夢と希望、ビジョンを持って前に進む雄大さん。エネルギーに将来の構想を語る若きフロントランナーの目は輝いています。

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 鳥取県拠点

〒680-0845 鳥取市富安2丁目89番地4 鳥取第1地方合同庁舎

TEL (0857)22-3131(内線613) <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>